



新着図書案内

2020年10月発行



『部屋で楽しむテラリウム つくる・育てる・癒される』



インドアグリーンの中でも生きものの息吹を濃密に感じることができるテラリウム、アクアテラリウム、パルダリウム、ビバリウムの魅力を紹介。テラリウムに映える100の生きものや、レイアウト水槽、テラリウム制作等を収録。

佐々木 浩之 // 著 戸津 健治 // 著 緑書房

『未完のオリンピック』

変わるスポーツと変わらない日本社会』



五輪はなぜ日本で開催されるのか。震災復興、原発問題など、日本社会の課題から考察しつつ、五輪を通して現代スポーツがどのように変化したかを追う。

石坂 友司 // 編著 井上 洋一 // 編著 かがわ出版

『一家に一冊! 防災アイデア手帖』



台風、大雨、地震などの自然災害から感染症、犯罪までを取り上げた防災ガイドブック。「災害前の予防・そなえ」と「被災後の対処法」を専門家のアドバイスとともに紹介。「お金とくらしのまもり方」も災害の観点から説明する。

世界文化社

『オオカマキリと同伴出勤』

昆虫カメラマン、虫に恋して東奔西走』



小さくて刺激的な昆虫の世界をファインダー越しに捉えたい! 昆虫少年だった著者が、昆虫写真家とサラリーマンとの二足のわらじで生き物相手に大奮闘する姿を綴る。写真も多数掲載。

森上 信夫 // 著 築地書館

『健康・医療情報の見極め方・向き合い方』



病気の治療法や健康食品、ダイエット法などにおいて、正確な情報の見極め方や入手方法、情報を入手した後の意思決定のコツやポイントをわかりやすく紹介する。『apital』連載に加筆・修正。

大野 智 // 著 大修館書店

『わさびの日本史』

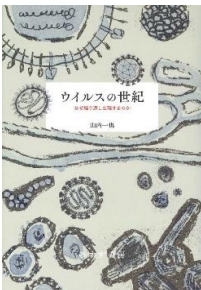
鮎・蕎麦・刺身…和食との出会いを探る』



日本固有の野生植物「ワサビ」は、いつ、どこで、どのようにして栽培植物になったのか。DNA解析でワサビが固有種であることを明らかにした著者が、古典籍と絵画を渉猟してその謎に挑む。わさび歴史年表付き。

山根 京子 // 著 文一総合出版

『ウイルスの世紀 なぜ繰り返し出現するのか』



20世紀後半以降、人間社会に次々と出現した新ウイルスを「エマージングウイルス」という。新型コロナウイルス(COVID-19)をはじめ、数々のエマージングウイルス事例を通じてウイルスと人間社会の関係を俯瞰する。

山内 一也 // 著 みすず書房

『世界一の巨大生物』



恐竜、クジラ、巨木など、巨大な生き物は、なぜその大きさになったのか? その代償として失ったものとは? 大型生物とその祖先である絶滅種の特徴や生態を、イラストや美しい写真とともに解説する。

グレイム D.ラクストン // 著 日向 やよい // 訳 エクスナレッジ

*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。
*紹介文はTRCマークより引用。*書影は日外アソシエーツ「BOOKデータベース」を利用。または出版社より許諾を得ています。





『シークレットサービス』

レーガン大統領の命を救った男』

1981年3月の白昼、ワシントンの上で襲われたレーガン大統領に覆いかぶさり…。シークレットサービスの警護官として大統領の命を救った人物が、犠牲をいとわない誇り高きシークレットサービスの緊張と情熱の日々を語る。

ジェリー パー // 著 立花 昌雄 // 訳 中央公論新社

『生き物が大人になるまで』

「成長」をめぐる生物学』

幼虫時代はなぜ必要？ 踏まれた雑草は、どう育つ？ 子に噛みつくキツネは残酷？ 多種多様な自然の生き物の成長のかたちを紹介し、人間にとっての「学ぶこと」や「大人になること」の意味を考える。

稲垣 栄洋 // 著 大和書房

『サムライ留学生の恋』

ドイツ、イギリス、アメリカ。留学した異国の地で恋に落ちた明治時代の日本男児たちは、異文化の壁をどう乗り越えたのか？ 青木周蔵、川田龍吉、新渡戸稲造など9名を取り上げ、彼らの恋愛とその結末を紹介する。

熊田 忠雄 // 著 集英社インターナショナル

『「大人の引きこもり」 見えない息子と暮らした母親たち』

普通に生きて欲しいだけなのに。部屋に引きこもる中年の息子と、年老いていく母親たち。長い地獄のような日々を経て、ようやく解決の道にたどり着き…。8人の母親たちが語った闘いの記録。

臼井 美伸 // 著 育鵬社

『モノが壊れないしくみ』

「モノはなぜ壊れないのか」を起点にモノの仕組みについて解説。「象が踏んでも壊れない筆箱」「卵が割れない低反発クッション」など、生活に密接に関わっているモノの材料や構造について謎解きする。

水野 操 // 著 ジャムハウス

『目でみる数字』

「ハリセンボンの針の数は350本」「横断歩道の白い部分は45cm」「四つ葉のクローバーの確率は10万分の1」など、35の数に関する疑問や不思議を写真で紹介。数字の詳しい解説と関連情報も掲載。

岡部 敬史 // 文 山出 高士 // 写真 東京書籍

『魚食の人類史』

出アフリカから日本列島へ』

霊長類の中でホモ・サピエンスだけが魚を食べる本当の理由とは？ 飢えを満たし、交通手段を発展させ、新たな文化を生み出した原動力を、他の霊長類との比較や、最新の人類史研究の成果を総動員しながら探る。

島 泰三 // 著 NHK出版

『親が認知症!？』

離れて暮らす親の介護・見守り・お金のこと』

リスクや不安を小さく抑えるため、早く「気づいて」早めに「対策」しよう! 認知症介護にかかるお金、見守り介護をラクにするツール…。離れて暮らす認知症の親を介護するためにやるべきことを時系列にまとめる。

工藤 広伸 // 著 翔泳社

『治療では遅すぎる。』

ひとびとの生活をデザインする「新しい医療」の再定義』

いかに病状を表面化させずに長生きするか、そのために医療は何ができるのか。若き現役医師が「ストリート・メディカル」という方法によって医療を再定義し、誰もがよりよい人生を獲得できる世界を創るための提言を行う。

武部 貴則 // 著 日経BP日本経済新聞出版本部

『京都発・庭の歴史』

京都御所、天龍寺、桂離宮、円山公園…。文化財保護に長年携わってきた哲学研究者が、平安から現代までの千年の庭の歴史をガイド。見た目や美しさだけでなく、知られざる使われ方に注目し、庭の本性を浮き彫りにする。

今江 秀史 // 著 世界思想社

*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。
*紹介文はTRCマークより引用。*書影は日外アソシエーツ「BOOKデータベース」を利用。

